

授業概要

私たちの身の回りには、企業の商品やサービス、新たな研究&開発などたくさんの情報があふれています。多くは新聞・雑誌やテレビ・ラジオ、インターネットといったメディア、家族や友人とおしゃべりを通じて私たちに届いています。そんな企業情報の中で、本講義は株主や投資家など金融市場に向けた情報開示を取り上げます。法や規則に沿った開示から各社の自主的な開示、IR サイトのコンテンツ、そして ESG(環境・社会・ガバナンス)情報や SDGs 情報などを具体的に追って、企業情報が広く拡散する仕組みを理解します。そして企業情報を追う株主・投資家など市場の対応について学びます。

授業計画

第1回	ガイダンス	・ 宣伝と広報の違いは何だろう
第2回	企業の発信情報	： 誰に、何を、どのように発信し、その効果を知る (1) 印刷情報とデジタル情報
第3回		(2) 法的規制の情報発信、任意の情報発信
第4回	(I) 法的開示	： 法に沿って開示しなければならない情報を知る (1) 有価証券報告書と決算短信
第5回		(2) 財務諸表と非財務情報
第6回		(3) 決算説明会資料、コーポレートガバナンス報告書
第7回		(4) 株主総会：議決権行使書/事業報告
第8回	(II) 任意開示	： 各社が任意に情報を発信する取り組みを知る (1) 会社案内/株主通信
第9回		(2) 統合報告書
第10回	(III) デジタル情報の時代	： デジタル時代の情報開示を知る (1) 企業ウェブサイト・IR サイトの展開
第11回		(2) モバイルとソーシャルメディア
第12回	(IV) 株主・投資家とはだれか	(1) 自分のお金か、他人のお金か？
第13回		(2) 他人のお金を運用する責任と仕組み
第14回	(V) ESG (環境・社会・ガバナンス)情報	(1) ESG 情報、SDGs 情報を求める動き
第15回		(2) 2つのコード (コーポレートガバナンス、スチュワードシップ)
第16回	まとめ	

到達目標

企業の情報開示の活動、情報拡散の仕組みを学んで、金融・証券分野に対する確かな知見を習得する。

履修上の注意

授業では、毎日の経済や金融・証券の動きを実例として取り上げるので、日々の経済や企業に関連する報道に関心を持ちたい。

予習・復習

企業の情報開示活動をよく理解するために、配布資料や参照テキストの復習は欠かせない。

評価方法

受講不良者は「不可」の評価とします。評価は授業中の議論やレポート (60 点)、試験 (40 点) などから総合的に判断します。授業への積極的な参加 (積極的な発言など) は加点の対象です。

テキスト

- ・教科書名：新版 イチから知る！ IR実学
- ・著者名：米山徹幸
- ・出版社名：日刊工業新聞
- ・出版年 (ISBN)：

また毎回、講義向けに配布資料を用意します。もちろん、参照する図書や文献も適宜、紹介します。